

国語科部会

1 学校研究課題を受けた教科のテーマ

学校研究課題「学びをすすめる教育活動の推進～見える化・発信を意識した取組3～」を受け、国語科では「『学習のねらいと見通し』と『振り返りとまとめ』を明確に」とし、取り組んだ。

学習活動の見える化を図るための方策として、まず、授業のはじめに「本時の目標」を板書することで、見通しをもって学習に進めると考える。また、生徒の考えをワークシートに記入させた上で発言させ、それを板書することで生徒の理解が深まると思われる。そのためにも、工夫された板書計画が必要で、授業の終わりに1時間の授業内容がわかるようにしたい。授業の終末では、何がわかったのか、わからなかったのかを明確にすることで、次へと繋がられると考えた。

2 具体的な取組

(1) 授業の目標・流れの提示

毎時間、授業の目標を板書し、授業の流れや内容を理解させてから授業に取り組んでいる。目標は、学習活動だけの提示ではなく、目的と手立てを入れるように心がけている。

そのことにより、生徒は見通しをもった取組をすることができる。また、1時間の授業の中で、「読む・聞く・書く・話す」を意識して、授業展開するようにしている。

少しずつではあるが、座席の隣同士のペア学習や、小グループでの話し合い活動なども取り入れている。

(2) 漢字小テストの実施

1か月ごとに漢字小テスト予定を背面黒板に掲示し、家庭学習での取組を促している。「漢字の学習」(明治図書)を活用し、2ページごとに2回の漢字テストを行い、月に6～8回実施している。テストのやり方は、聞き取ったものを用紙に書くという方式で、集中して聞く力を身に付けさせるという意図がある。採点は、すぐに座席の隣同士で交換し、採点をさせる。10点満点の8点以上を合格とし、2回目で合格できなかった生徒に対しては、放課後の時間などを使って補習を行っている。

(3) 語句ノートを取組

教科書に出てくる語句を中心に、また、読書の本の中から、新聞やニュースなどから気になった語句など、調べる語句は何でもよしとし、毎月、ノート提出をさせている。

ノートは、B6サイズの小さいノートを使わせている。ノートを点検すると、その語句を使った文が書かれていたり、類義語・対義語など関連語句への広がりが見られるノートもある。

(4) 古典作品の暗唱

中学校の古典学習での大きな目標は、古文や漢文に読み慣れ、古典作品に親しむことである。繰り返し、音読することで、歴史的仮名遣いや独特の言い回しにも慣れ、古典作品のよさにも気付くはずである。また、1年、2年生は、冬休みの課題として、百人一首の暗記にも取り組ませ、3学期に、百人一首大会を実施している。

(5) 定期テストの「聞き取り問題」

定期テスト問題の中に、放送を聞き取る問題を取り入れている。集中して聞く力を高めることと、聞きながらメモをとる習慣をつけるという目的である。1年生では、聞きながらすべてを書こうとして必要のない言葉をメモしてしまったりしているが、2年、3年と慣れてくると、箇条書きや矢印で繋いだり、と要領がよくなっていく。

(6) 全国・県学力状況調査の活用

朝学習として、1週間(5日間)問題に取り組んだ。その中で、いくつかの課題が明確になった。

まず、問いをしっかりと読み取れていないということである。二つの記号を答えなければならない問いに対して一つしか書かれていない生徒が多かった。また、書く問題に対して、全く書いていない生徒、書く条件があるにも関わらず、その条件を満たしていない生徒もいた。まず、正確に読む力が要求される。

(7) 家庭学習の取組

家庭学習については、漢字小テストの学習、語句ノートの取組以外に、ワーク学習に取り組ませて、定期テスト前に、ワークを提出させている。

(8) 自己評価カードの活用

毎時間、授業の終わりに「自己評価カード」の記入をさせている。個による学びの振り返りと考え、単なる感想だけではなく、本時の学びについて書かせている。記述については、3文で書くことを基本とし、①今日の授業で取り組んだこと、②授業でわかったこと・わからなかったこと、③これからに生かしたいこと、などである。ときには、今日の授業の課題・ポイントについて書かせたり、今日の授業で出てきた語句を使って文を書かせたりした。生徒にとっては、授業の振り返りができ、教師にとっても、生徒からの授業評価と捉え、授業後に回収し、コメント記入をしている。

(9) 作文コンクールなどへの作品出品

さまざまな作文コンクールなどを紹介し、夏休みや冬休みなど長期休業のときなどを利用して、出品を呼びかけ、希望する生徒に書かせるようにしている。入賞などすると、それがよい自信となっているので、今後も積極的に取り組ませたい。

3 成果と課題

(1) 成果

①「自己評価カード」は、生徒自身が自分の学習活動を振り返り、理解度を知ることに役立っている。また、教師も一人ひとりの生徒の学習状況や理解度を把握することができ、教師自身も、授業の振り返りができた。

②「漢字小テスト」については、回を重ねることに定着し、漢字テストのある日は、休み時間から勉強に取り組んでいる生徒が多かった。

(2) 課題

①学習の遅れがある生徒に対して、フォローする時間がなかなかとれない。教科書の音読や漢字練習など取り組ませたい。個に応じた支援の充実が課題である。

②「語句ノート」の取組は、語彙力を豊かにしていると思われるが、それを活用させることが課題だと考える。

③基礎・基本の定着を目標に取り組んでいるが、授業の学習プリントの中に、高いレベルの探究的な課題を入れるなど工夫も必要と思われる。

社会科部会

1 学校研究課題を受けた教科のテーマ

学校研究課題「学びをすすめる教育活動の推進～見える化・発信を意識した取組3～」を受け、社会科では、「ICTと新聞の活用と生徒の表現方法の工夫」というテーマを設定した。ICTや新聞を効果的に活用したり、生徒の思考力や表現力を高める工夫をしたりすることが、生徒の学びをすすめることにつながると考え研究に取り組んだ。

2 具体的な取組

(1) デジタル教科書の活用

今年度、地理的分野・歴史的分野・公民的分野のデジタル教科書を全学年の授業で毎時間使用しながら授業を行った。活用する場面としては、絵や写真、グラフ、表、地図などの資料を提示するときや写真資料などに関する動画を視聴するとき、難解な用語について確認するときなどがあった。また、2学期からは生徒用タブレットでも歴史と公民のデジタル教科書を使用することができたため、1、2年生は歴史、3年生は公民のデジタル教科書を使用した。



(2) タブレットの活用

- ・2学期から授業のときは常にタブレットを用意するようにして、デジタル教科書を使用するときやNHK for Schoolの動画をみせるとき、何か調べたいことがあるときなどにタブレットを活用した。
- ・生徒の意見を見える化するために、google jamboardを活用した。店で売りたいものを生徒に意見を出させ、表示した。
- ・google classroomの課題を活用した。課題を班ごとに配布し、取り組ませた。



(3) 新聞の活用

今年度NIEに取り組んだことにより、9月から2月にかけて毎日5～6紙の新聞が学校に配達された。教科書に出てくる内容に関連した記事などがあった場合は、授業の中で紹介するようにした。また、生徒が新聞から興味をもった記事を選んで、記事の要約や感想をワークシートに記入する活動も行った。

(4) 思考の見える化

資料（読み物、写真、地図、表、グラフなど）を用いた授業が好きな生徒が多い一方、資料を読み取ったことについて文章で表現することや言葉で説明することは苦手な生徒が多い。このことから、授業の中で生徒が自身の考えや学習したことのまとめをノートに書く場面やそれを発表する場面を意図的に多く設定することで、文章で表現することや言葉で説明することに対する苦手意識がなくなっていくのではないかと考えた。また、書くことが思考の見える化につながり、発表することが発信する力を高めることにもなると考える。

(5) 分野別対策プリントの配布

- ・分野別の対策プリントを作成し、配布した。
- ・生徒が苦手な分野は google forms のアンケート機能を活用し、把握した。

(6) 小テストの実施

- ・分野ごとに小テストを行った。
- ・正答率が低かった問題は解説を行った。

3 成果と課題

(1) 成果

- ①デジタル教科書やタブレットの活用により、生徒の視覚に訴える場面が多くなったことで理解しやすかったと思う。また、タブレットを活用することにより、生徒の意見を即時に反映することができたので、生徒の情報共有の手助けにすることができた。
- ②新聞を授業で活用することで、生徒が新聞を身近に感じるとともに教科書の内容と実際に世の中で起きていることが結びついていることを実感することにつながった。
- ③思考の見える化については、最初の頃は自身の考えや学習したことのまとめをノートになかなか書けない生徒も多かったが、書く場面を多く設定したことで徐々に書ける生徒が増えてきたので、文章で表現する力がついてきたと感じている。
- ④分野別対策プリントでは、生徒が自分の苦手な分野に重点的に取り組んでいた。

(2) 課題

- ①タブレットの google jamboard を使用して、生徒の意見を見える化したあとの生徒自身の考えを深める活動が不十分であった。そのため、意見交換後に課題に対する考察をおこなうなど自身の意見を深めることができる活動を組み入れたい。
- ②ICT 機器の準備が難しかった。初めて扱う機能や生徒のタブレット端末がエラーを起こした際の対処に時間がかかってしまった。そのため、繰り返し機器を扱い、対処法を確立することで課題に取り組ませる時間を確保したい。
- ③新聞を授業で活用できる場면을さらに増やすことができるとよい。
- ④自身の考えや学習したことのまとめをノートに書いたり発表する活動に関して、生徒の意識の中では、文章で表現することや言葉で説明することについて自信がない生徒がまだ多いので、もっと自信をもてるようにしていくことが課題である。

数学科部会

1 学校研究課題を受けた教科のテーマ

「ICTを用いた指導の工夫～基礎・基本の定着を目指して～」

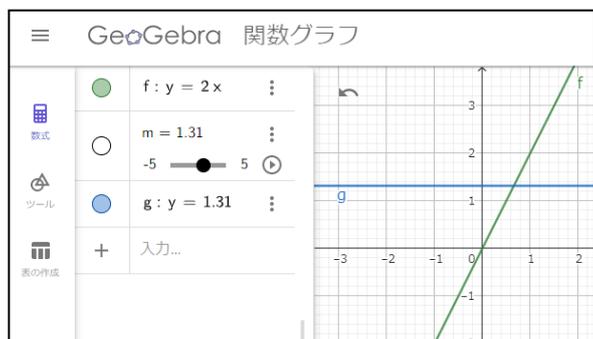
学校研究課題「学びをすすめる教育活動の推進～見える化・発信を意識した取組3～」を受け、数学科では上記テーマを設定した。紙面や教具だけでなく、タブレットやデジタル教科書を利用して映像を見せることはもちろん、自分たちで実際に式やグラフを動かすことで、その変化や特徴をとらえることができると考えた。

2 具体的な取組

(1) タブレットを用いて ICT のツールを活用

- ・ジオジブラ (GeoGebra) やデスモス (Desmos) を用いて、式をグラフに表したり、点や線の動きを入れたりした活動を行った。さらには、様々な種類の関数について学んだ。
- ・統計ツール statKeirin 用いて、データを入力し、度数分布表やヒストグラム、箱ひげ図などを作成した。

【ジオジブラの関数グラフ】



【statKeirin で度数分布表を作成】

statKeirin | データ 棒グラフ 最小値/最大値/代表値 度数分布表 四分位数 | リセット 再開 保存

◆ 度数分布表

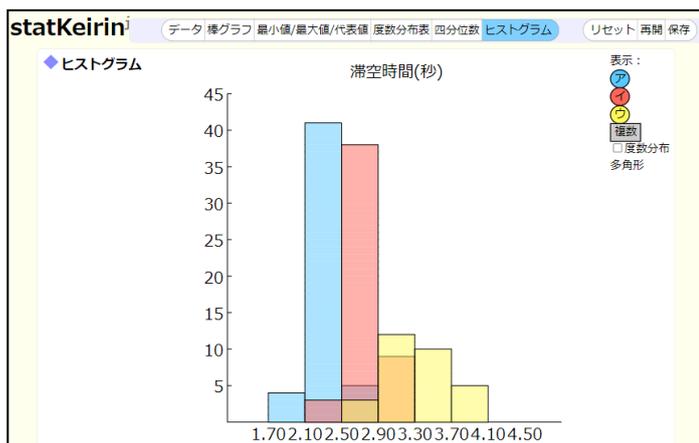
階級の範囲 1.7 | 4.2 | 階級幅 0.4 | 階級の個数 7

滞空時間(秒)の度数分布表

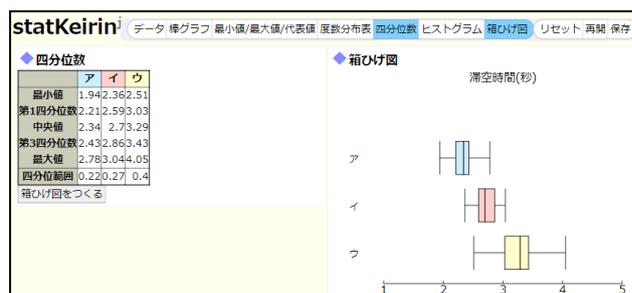
階級 (以上～未満)	ア			イ			ウ		
	度数	累積度数	相対度数	度数	累積度数	相対度数	度数	累積度数	相対度数
1.70～2.10	4	4	0.08	0	0	0	0	0	0
2.10～2.50	41	45	0.82	0.9	3	0.06	0.06	0	0
2.50～2.90	5	50	0.1	1	38	0.76	0.82	3	0.1
2.90～3.30	0	50	0	1	9	0.18	1	12	0.4
3.30～3.70	0	50	0	1	0	0	1	10	0.33
3.70～4.10	0	50	0	1	0	0	1	5	0.17
4.10～4.50	0	50	0	1	0	0	1	0	0
計	50		1	50		1	30		1

ヒストグラムをつくる

【statKeirin でヒストグラムを作成】



【statKeirin で箱ひげ図を作成】



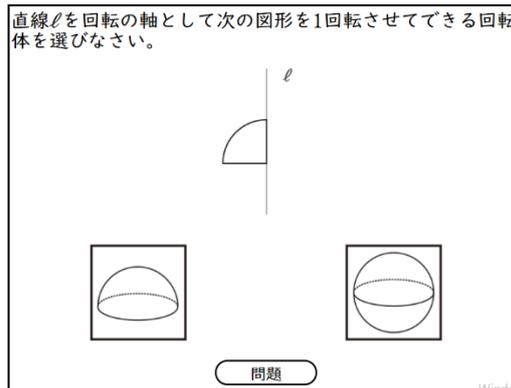
(2) デジタル教科書を活用

- ・映像や理解しやすくするための図を積極的に活用した。
- ・つまづいている生徒に例題や問題を改めて説明する際に効率よく活用した。
- ・追加問題を表示し、問題を終えた生徒には難易度の高い問題に取り組ませた。
- ・フラッシュカードを用いて、計算問題や暗記事項に取り組んだ。

【映像の静止画】



【フラッシュカード】



3 成果と課題

(1) 成果

- ①休み時間などにジオジブラ (GeoGebra) などを用いて学習している様子が見られ、学習意欲の向上につながった。
- ②つまづきのある生徒への支援と問題を早めに終わってしまった生徒への配慮をデジタル教科書で補うことができ、効率よく学力の向上を図れた。
- ③映像で見せることができるので、イメージがしやすく、記憶にも残りやすい。
- ④図の特徴や変化を目で見ることができ、物事を批判的に捉えることができた。

(2) 課題

- ①つまづきやすい問題の指導を効率よく全体で行えるが、個々のつまづきを解消するのが難しい。時間を取り、個別に支援していく。
- ②教員の準備やICTの利用をスムーズに行いたい。また、タブレットの利用方法が答え合わせや復習など、受け身な部分が多いので、生徒が自主的に取り組むことのできる課題を出していきたい。

理科部会

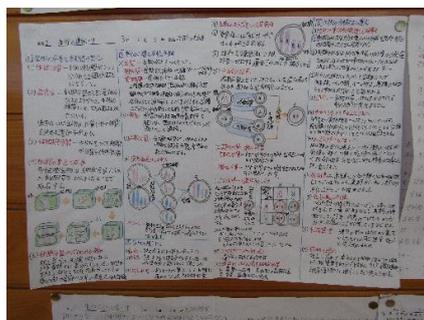
1 学校研究課題を受けた教科のテーマ

学校研究課題「学びをすすめる教育活動の推進～見える化・発信を意識した取組3～」を受け、理科部会では、教科のテーマを「見える化・発信を意識した指導による学習意欲と基礎学力の向上」とし、取り組んだ。

2 具体的な取組

(1) 単元まとめ学習

教科書の各単元の学習の終了後、「単元まとめ学習」を行った。これは、生徒自身が教科書やノート、資料集等を使って、その単元で学習した内容をまとめるというものである。この取組により、既習事項の見える化をすることで、学習内容を振り返ることができる。



(2) テストやり直しプリント

定期テスト後に、生徒には「テストやり直しプリント」というものを取り組ませている。これは、テストで間違えたところや解説のポイント等をまとめるというものである。これにより、テストで間違えた問題の問題文や解答を見える化し、自分に必要な復習を行わせている。

(3) 「今日のねらい」の提示と振り返り

授業では毎回、「今日のねらい」を提示している。これにより、本時の授業で学習する内容を明確化し、授業の最後にはこのねらいについて生徒にまとめを書かせている。まとめについては、キーワードを伝え、まとめをしやすいようにフォローしている。



(4) 教材のタイムリー展示と常時展示

観察・実験等で用いた教材を、内容によっては観察・実験後もしばらく置いておき、興味のある生徒がふれられるようにしている。(タイムリー展示)

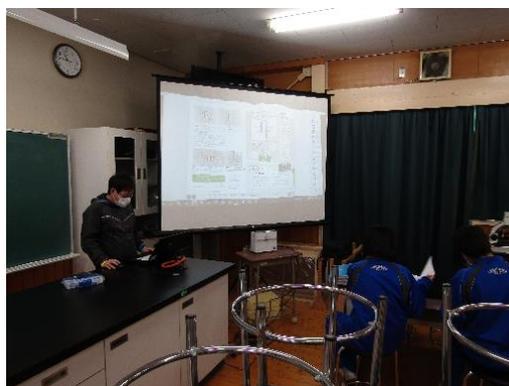
また、生徒が苦手な方位や星座の位置関係を常時確認できるように、理科室内には東西南北とその方位での星の動き方、黄道12星座を掲示している。(常時展示)

ミニ地球儀ボールとミニ方位用紙→



(5) デジタル教科書と拡大提示環境の活用

本校の理科室は2つあり、どちらの理科室にもプロジェクターと大型スクリーンを常時設置している。これにより、デジタル教科書を毎時間大きく提示しながら授業を行うことができる。デジタル教科書には、実験や学習内容に関する動画や、学習をサポートする機能が備わっているため、効率的に授業を行うことができる。



3 成果と課題

(1) 成果

- ① (1) 単元まとめ学習、(2) テストやり直しプリント、(3) 「今日のねらい」の提示と振り返りによって、既習事項の振り返りや復習を効率良く行わせることができた。
- ② (4) 教材のタイムリー展示と常時展示、(5) デジタル教科書と拡大提示環境の活用によって、学習内容への興味を視覚的に持たせ、学習意欲の向上につながった。

(2) 課題

- ① 生徒に一人1台導入されているタブレットPCの活用機会が、年間を通して少なかった。単元まとめ学習や学習の振り返りの場面でタブレットPCを活用し、気になることを調べながらまとめることで、既習事項の振り返りがより効果的なものとなると考えられる。
- ② 理科室内の掲示物や展示物については、毎年同じようなものに偏ってしまっている。掲示物については見直しを行い、学習内容を視覚的に確認しやすいような環境を整える必要がある。展示物についても見直しを行い、生徒の学習活動や教員の指導の妨げにならない程度に、展示スペースの拡大や、展示物を増やす等の取組が必要であると考えられる。

英語科部会

1 学校研究課題を受けた教科のテーマ

学校研究課題「学びをすすめる教育活動の推進～見える化・発信を意識した取組3～」を受け、英語科では、「生徒達が目標を意識して取り組める指導と評価の工夫」として取り組んだ。毎回の授業、あるいは学習するユニットごとに目標を示すことで、生徒達は「何を身につけたらよいか」を意識して学習に望めると考えた。また、ユニットごとに小テストを行い、事前に出題内容の練習を行ったり、パフォーマンステストを行う際に評価基準を示すことで、生徒達が何をどう練習したらよいかを明確にできると考えた。

2 具体的な取組

(1) 学習カードの活用

カードに毎時間、授業や家庭での取組について記入させている。家庭での教科書の音読回数を記録させたり（2、3年）、正確に音読できるかを、友達同士で評価し合い、記録させる（1年）などした。また、学習の動機づけとして、カードを見て自分の理解度がわかるように工夫した。さらに、授業中の発言や、T-F テスト、Q&A などの正解に対してポイントやシールを与えることで自分の頑張りを視覚化し、取組への意欲付けとした。

(2) 授業の流れの提示（1年）

毎回授業の流れや目標を黒板に明示し、内容を理解させてから授業を行っている。生徒達は何を学び、どういうことができればよいのかを意識して授業に取り組んでいる。

(3) ペアワーク・グループワークの活用

基本文練習、短い会話練習等を授業の始めにペアで行わせている。また、教科書の音読等難しくないものはペアで、長い英文の読み取りやディベートなど、応用力が必要なものはグループで協力して行わせるようにした。人間関係を考慮し、相手を固定せず次々と変えたり、意図的にペアを組むなどの工夫もした。また、題材により音読練習も班単位で練習させ、班員がみんな読めるよう教え合うことを指示し、協力して発表させるなどした。

(4) 小テスト・音読テストの実施

ユニットごとの単語テストでは、重要単語を提示し、その中から出題することで、苦手な生徒にも取り組みやすくした。また、毎学期音読テストを行い、毎日の学習の中で音読の大切さを理解させるようにした。音読テストでも明確に評価基準を示し、どう練習したらよいかをわかるようにした。

(5) パフォーマンステストの実施

学習指導要領の改訂に伴う学習評価の観点の変更を受け、昨年度より、筆記テストの見直しと共に、各学年でパフォーマンステストを行った。学習段階や学習内容を考慮し、口頭でコミュニケーション能力が評価できるよう、ALT と面接する形で行った。また、評価基準等を指導内容や生徒の実態に応じて見直した。

(6) 家庭学習の指示

①教科書の音読

学習したページを10回を目安に、家庭で音読する用に指示し、音読回数を学習カードに記録させた。英語学習の最も基礎となる学習なので、授業でも重点的に行い、教科書のバーコードやタブレットを活用して練習できるよう指導した。学期に1度は音読テストを行い、意欲付を図ると共に、定着度を確認し、結果を還元した。

②単語・基本文、本文の書き取り練習

単語は10回以上、基本文は3回以上ノートに練習し、本文を1回以上書き取ることを必須の課題とした。ノートは定期テスト後に点検し、評価資料に入れた。特に、書くことは努力の差が生じる学習なので、授業中も机間指導しながら点検するようにした。

③プリント、ワークブックの問題練習

プリントの課題は特に基本の習得が必要な1年生に適宜与え、次時に点検と答えの確認等を行った。ワークは各学年1冊ずつ購入し、毎日の復習として活用させた。また、定期テスト後に点検し、評価資料に入れた。

3 成果と課題

(1) 成果

- ①学習カードを3年間継続して書かせることで、生徒自身が自分の学習活動を振り返り理解度を知ることによって役立っている。また、教師も一人一人の学習状況や理解度を把握でき、予習や復習を行うよう声かけができた。また、学習カードのポイント制により、3学年を通して、発表・発言・授業への取り組みなどの意欲付けになっている。
- ②音読テストやパフォーマンステストを行うことで、書くことが苦手な生徒の学力も適切に評価することができ、学習意欲にもつながっている。また、事前にペアやグループで練習を行うことで自信を持って取り組めるようになっている。
- ③ペアやグループワークを行うことで、英語の苦手な生徒も友達から教えてもらったり、「頑張ろう」という姿勢が見られた。また、クラス全体では発言できない生徒も発言量が増えた。英語の得意な生徒も活躍する場面が増え、達成感を味わっている。
- ④音読については、音読テストの結果及び授業での様子から、ほとんどの生徒がしっかりとできている。また、書くことが苦手な生徒の多くも、パフォーマンステストでは合格できている。
- ⑤「読む」と「書く」の最低限の課題を提示することで、家庭学習の方向付けができ、何もしない、という生徒は少なくなっている。

(2) 課題

- ①学習の遅れている生徒を把握できても、それをフォローしてあげる時間がなかなか作れない。取り組む力のない生徒がいるので、サポート体制や授業外での時間設定を考える必要がある。
- ②教科書の内容が大幅に増えたことと生徒の実態を踏まえ、指導内容の精選や指導方法の改善を常に行う必要がある。
- ③まだ、点検・評価されることが家庭学習の動機づけを担っている部分が大いと思われるので、自主的に取り組める意欲を作れるのが理想である。引き続き家庭学習にしっかり取り組ませることで、基礎の定着を図りたい。
- ④パフォーマンステストについては、書くことが苦手な生徒の能力もくみ取れるよう、内容や評価基準を常に見直していき、生徒達の学習意欲を喚起しながら適切な評価ができるようにしていきたい。
- ⑤書くことが苦手な生徒が多いので、小テストの実施方法や取組の工夫、実施後のフォローについてしっかりと計画したい。



毎回ペアを変えていろいろな人と会話練習を行う。



ALTとのパフォーマンステスト

保健体育科部会

1 学校研究課題を受けた教科のテーマ

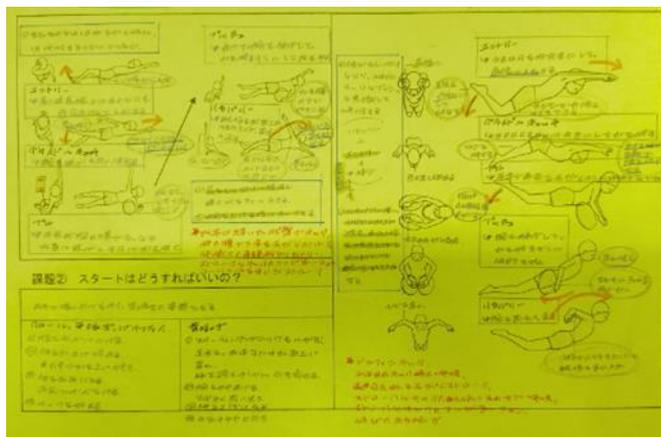
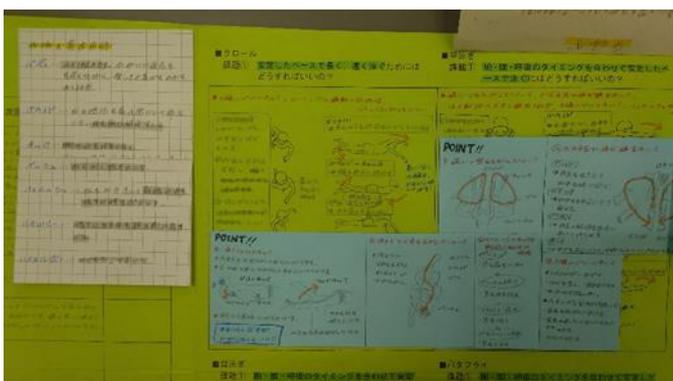
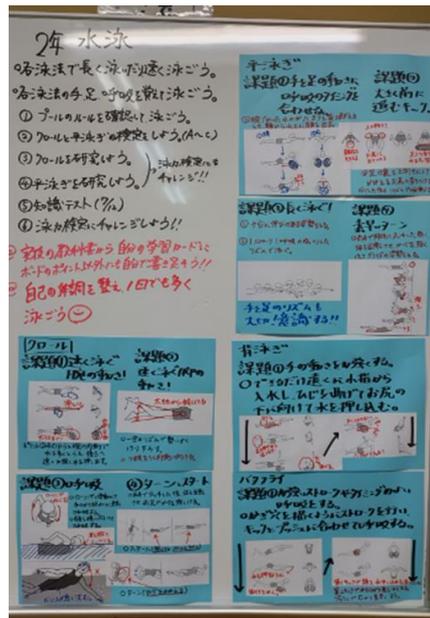
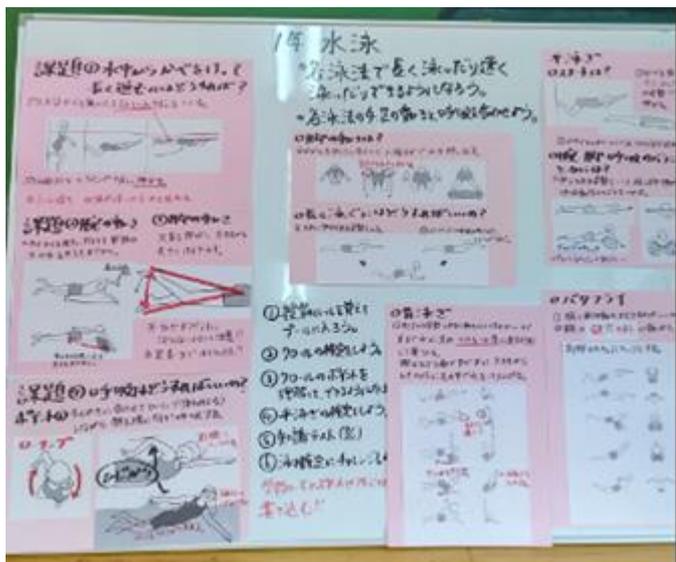
「ねらいや個人課題の視覚化を図り、目標を意識できる授業づくり」

「学びをすすめる教育活動の推進～見える化・発信を意識した取組 ～3～」を受け、保健体育科では上記テーマを設定した。毎時のねらいやポイントをホワイトボードに示すことで、「学ぶ内容・手順・目標」を意識して取組ができると考えた。また、生徒の技能課題をビブスの色で分けることで課題の見える化を図ることで、外的に課題が見えチームメイトや仲間、教員からも課題に応じた効率のよい声かけをすることができると考えた。見える化を図ることで仲間への具体的なアドバイスを引き出し、チームミーティングの充実を図ることで生徒の発信する力（表現する力）も育成していく。

2 具体的な取組

(1) 授業のねらいやポイントを掲示する。

- ・毎時間のねらいをホワイトボードに掲示し、まとめの際に振り返りやすくする。
- ・単元計画の段階から掲示するねらいを見直し、生徒に寄り添ったねらいに随時変更する。
- ・ポイントをイラストと言葉で掲示することで生徒の視覚的刺激を意識した。
- ・ねらいを学習カードに記載しておく。



(2) 課題別でビブスやグループ分けをする。

- ・個人の課題別にビブスを使用し、生徒が個人課題を思考し決定する機会を増やした。
- ・ビブスの色を分けることで生徒の課題を視覚化し、グループ活動でアドバイスをしやすくした。

(3) 授業時のICTの活用

- ・タブレットに見本やルール解説の動画を載せた。
- ・タブレットでお互いの動きを撮影し、アドバイスの資料とした。
- ・Googleクラスルームでリーダーや種目のクラスをつくり、情報共有した。
- ・保健の授業において、パワーポイントでわかりやすくまとめてイメージしやすい授業を意識した。

3 成果と課題

(1) 成果

- ①ねらいを常に生徒が意識した取り組みや生徒同士の会話が多く見られた。
- ②掲示したポイントや用語を用いて生徒が会話を進めていた。
- ③振り返りカードにねらいに沿った反省や次時の課題を書き込む生徒が増えた。
- ④個人の課題に沿った視点でアドバイスする生徒が増えた。
- ⑤自身の動きを動画で確認しながらのほうが仲間からのアドバイスが効果的だった。

(2) 課題

- ①ねらいを事前に学習カードに記載しておくとりくみでは、ねらいの記入漏れやホワイトボードのスペースの問題は解決できたが、「生徒の実態に応じたねらいの微調整」が困難になった。来年度は生徒が書き込めるようにし、ホワイトボードは教員の書き方を工夫して改善していく。
- ②学習カードや掲示物を参考にする生徒が少ない。入口や一定の場所に道具を置きっぱなしにせず、持って移動できるように工夫する。
- ③授業中における話合い活動は活発になった。理由は時間の確保があげられるが、その分展開部分の時間を減らした。導入・展開・まとめの時間の見直しを図る。(種目によっては片付が時間がかかるのでそこも考慮する。)
- ④生徒がタブレットを持ってくる機会は増えたが、外での使用も増やせるようにする。

(3) まとめ

「学びをすすめる教育活動の推進～見える化・発信を意識した取組 ～3～」を通して、運動に関わる二極化(運動する子としない子)の解消のために夏休みを利用して「体力アップトレーニング」を実施した。2学期のスタートでの生徒の動きは違った印象である。しかし、継続して運動を取り入れる生徒は少ない。運動は学校の体育と部活だけという生徒も少なくない。生涯にわたって運動に親しむ生徒を育成するための手立てを今後検討し実践していく。

今年度は、発達段階や生徒の実態で実技試験や授業内容も随時見直して変更をしてきた。その結果、生徒の成功体験は昨年度より多く作れたと実感している。

来年度は保健体育の授業を通して、運動の大切さを理解し自宅でも運動を取り入れる生徒を増やせるようにしていきたい。

音楽科部会

1 学校研究課題を受けた教科のテーマ

学校研究課題「学びをすすめる教育活動の推進～見える化・発信を意識した取組3～」を受け、音楽科では、「表現と鑑賞の幅広い活動を通して、生徒自身が知覚し感受したことを表現する力を育てる」とし、取り組んだ。

2 具体的な取組

(1) 基礎的な知識の繰り返し練習

題材名、作詞者名、作曲者名、基本的な音楽用語、音楽記号の読み方や意味を繰り返し練習した。一人一回は発言できるよう、1問1答形式で行うようにした。

(2) 基礎的なリコーダーの運指・歌唱法の必要な技能の定着

アルトリコーダーを用いて基礎的な運指やタンギング、歌う時の姿勢、発声、子音を生かす歌詞の発音方法、腹式呼吸法を繰り返し練習した。

(3) 音楽表現を創意工夫させ、音楽のよさや美しさを味わって聴かせる

曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解させた。音楽の特徴を生かし、音楽と関連付けさせ、自分の思いを持って音楽表現をさせた。音楽のよさや美しさを味わって聴き、自分の言葉で発表させた。

(4) 音楽活動の楽しさを体験させる

題材を通して皆で音楽を作り上げる喜びや感動を味わわせた。

本校のひのき祭「合唱の部」を通して学年単位で合唱曲を仕上げ、玉川班音楽祭や西部北地区音楽会に参加した。卒業の歌「旅立ちの日に」の作曲者の高橋浩美先生をお招きし、全校生徒で楽曲に対する思いのお話を聞き、合唱指導を仰いだ。楽曲の理解を深め、卒業式に向けて全校生徒の気持ちを一つにし、思いを込めて歌うことができた。



3 成果と課題

(1) 成果

①授業の最初に、前時の内容の基礎的な知識の復習を全体で行い答えることができるようになってきた。

②運指やタンギングをピアノの伴奏に合わせて演奏することができた。

1人で演奏する機会を設定し、リズムに合わせてテンポ良く一人ずつ行った。一人で演奏することにより、自信を少しずつ持つ生徒が増えてきた。

③曲を聴き、音楽の特徴を自分の力で知覚・感受し、言葉にして書く機会を増やした。自分の思いや感じたことを書くことができた。友達の意見を聞き、自分に近い意見をプラスして書かせ、語彙を増やして書くことができた。

④本年度は、打楽器奏者、トランペット奏者、テノール歌手、ソプラノ歌手、「旅立ちの日に」の作曲者の来校により、プロの方のお話や演奏を生で聴く機会がたくさんあった。また、合唱の発表をする場面も多々あり、本番に向けて皆で合唱を創り上げることができた。「歌声が響く学校作り」を目指して、歌声から都幾中プライドの育成にも繋ぐことができた。

(2) 課題

①一人一人の知識の定着を確実に行うために、ミニテストを行い意識づけをしていきたい。

②歌唱の技能テストでは、皆の前で歌うか、教師の近くで歌うか選択させた。少しずつ経験をさせ、全員が一人で皆の前で歌えるようにしていきたい。

③語彙を増やす方法として、様々な言葉を友達の意見から引き出し、その他にも皆で共有できるよう、掲示物も工夫できるようにしていきたい。

④都幾中プライドの「挨拶」「返事」の部分で、音楽で学ぶことができる顔の表情や声の出し方から、生徒一人一人が自信を持って自ら積極的にできるよう、今後も意識しながら指導を続けていきたい。

道徳科部会

1 学校研究課題を受けた教科のテーマ

学校研究課題「学びをすすめる教育活動の推進～見える化・発信を意識した取組3～」を受け、道徳科部会ではテーマ「学習意欲を高め、道徳的価値の理解を深める工夫」とし、取り組んだ。

2 具体的な取組

(1) デジタル教科書の活用（1学年担任 米山祐樹）

授業では、教科書を使用するだけでなく、デジタル教科書も併用している。デジタル教科書には、範読機能や関連動画があり、必要に応じて活用している。また、教科書内の場面絵を拡大して授業の導入で使用した後、掲示しておくことで、生徒が目にしたときに学習内容について再び考えるきっかけとなるようにしている。

（左：デジタル教科書の画面、中央：デジタル教科書内の映像資料、右：場面絵の掲示）



(2) 映像資料等の拡大提示（1学年担任 米山祐樹）

生徒にとって、教科書で紹介されている内容が身近なものであったり、知っているものであったりする場合もあれば、そうでない場合もある。生徒にとって身近ではなく知らない内容を取り扱う授業では、映像資料を拡大提示して、人物や出来事について簡単に紹介するようにした。

（左：阪神淡路大震災に関するニュース映像、右：登山家の野口健さんの活動の映像）



(3) 生徒のコメントの掲示（2学年担任 石川和順）

授業中の発言や道徳ノートに記入した内容など、生徒の言葉を担任が集約し、授業後に掲示する取り組みを行った。生徒の意見を全てではなく、同じような意見でまとめたり、異なる意見を比較したりして、授業後も、道徳的価値を深められるように工夫した。

(4) ミニホワイトボードの活用 (2 学年担任 飯塚優)

クラス全員に2枚のミニホワイトボードとホワイトボードマーカーを渡し、授業を行った。これにより、授業中の発問に対しての意見を全員が記入し、自分の前に出すことで、全員の意見を教員も生徒も把握することができる。また、発表した意見はそのままミニホワイトボードを黒板に掲示することもできるよう、マグネットが貼り付けてある。



(5) 心情図の活用 (3 学年担任 阿部朋広)

授業の内容で複数に意見が分かれる場面で、心情図を活用した。例えば、2つに分かれている意見を、間を空けて黒板に書き、生徒が自分の名前のマグネットを貼る。生徒は、マグネットを貼る位置によって、どちらの意見にどの程度寄っているのかを表現する。全員がマグネットを貼り終わったところで、黒板を見ながら教師が意見を聞いたり、生徒同士で話し合ったりした。

3 成果と課題

(1) 成果

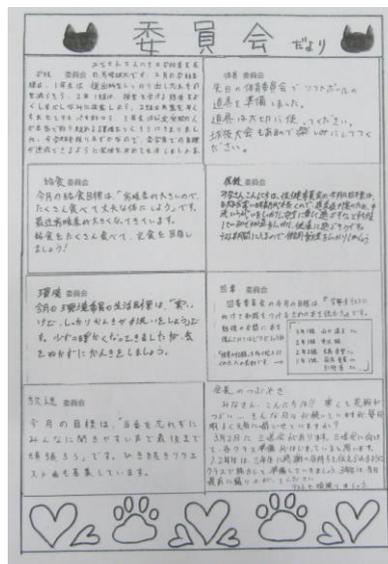
- ① (2) 映像資料等の拡大提示については大変効果的であった。1 学年で阪神淡路大震災に関する教材を扱ったとき、生徒は生まれる前の出来事だったため、どのような災害だったのかがわからない様子であった。しかし、当時のニュース映像や震災に関する映像などを短時間見せることで、どのような災害であったかを理解し、教材の話を深く考えることができていた。
- ② (4) ミニホワイトボードの活用については、発表が苦手な生徒でも自分の意見を発信しやすく、言葉を書いて表現しやすい生徒も発表しやすいため、効果的な方法であった。

(2) 課題

- ① 新年度に別の学年の授業を行いやすくするために、教材等を共有する取り組みが行えると良かった。(1) デジタル教科書の活用については、全学年全教材の場面絵等を掲示できるようにする、(2) 映像資料等の拡大提示についてはURLを一覧にしてまとめておく、(4) ミニホワイトボードの活用については全生徒分を用意しておくといった取り組みが必要であると感じた。
- ② 生徒に一人1台導入されているタブレットPCを活用し、アンケートや Google Jamboard 等の機能を使って話し合いを進める機会を増やせると良い。

(4) 生徒会だより・委員会だよりの発行

毎月1回、生徒会新聞（Toki news）と委員会だよりを発行している。内容は、各月の行事やイベントを中心に生徒への連絡やアドバイス、呼びかけ等である。専門委員会が新聞のテーマを決め、それに応じたデザインにしたり、生徒に読んでもらうための工夫をしている。委員会だよりでは、各委員会の月目標を中心に、必要な情報を紙面で伝達できるようにしている。



3 成果と課題

(1) 成果

- ①生徒がタブレットを使うことに抵抗がなくなり、活動時には常にタブレットを開いて利用している。その結果、タイピングのスピードが早くなり、検索等のインターネットの活用で、話し合いも活発に行うことができた。
- ②オンラインによる生徒朝会では、実際に顔を出して話すことで発言する生徒に緊張感が生まれ、人前で話す機会の確保につながっている。さらに、相互に画面がつながっているので、聞く側の生徒も集中して話を聞くことができた。また、朝の移動時間の削減により、生徒の朝の準備時間や担任の必要な連絡を行う時間が確保できた。
- ③生徒会新聞のデザインを考える際に、インターネットでの情報を参考にしたり、書く内容を書き留めたりと、個人個人で考えて利用することができている。

(2) 課題

- ①タブレットでメモをとることで、学校内での確認、情報の共有はいつでもできるが、家庭での確認が難しいため、紙でのメモも取る必要がある。紙とタブレットの使い分けをうまく行い、それぞれのよさを感じる指導を行っていきたい。
- ②オンラインによる生徒朝会では、聞いている側がどんな表情で聞いているか、どんな反応をしてくれるかがわかりづらいため、一方的な話になってしまうことが多い。実際に集まって話す方が、双方向のやりとりがしやすいので、オンラインのよさ、実際に人前で話すことのよさ、どちらも感じる事ができるように、生徒朝会の在り方を考えていきたい。

総合的な学習の時間部会

1 学校研究課題を受けたテーマ

学校研究課題「学びをすすめる教育活動の推進～見える化・発信を意識した取組3～」を受け、次のような目標のもと、学年ごとに取り組んでいる。

- (1) 体験を通して適切な課題を見出し、ねばり強く追求できる力を育成する。
- (2) 情報や資料を主体的に収集し、目的にあった学習方法を工夫できる力を育成する。
- (3) 他者の意見を尊重しつつ、学んだことを生かせる思考力、実践力を育成する。

また、令和4・5年度、NIEの実践指定校となり、NIE研究課題「新聞を身近に感じ、興味をもたせる」とし、取組がスタートした。

2 具体的な取組

【第1学年】

<前期>テーマ「郷土を知る」

・自分でときがわ町について調べたいことを決め、ときがわ町について調べたこと（良さ、魅力、特徴など）を新聞形式にまとめ、ひのき祭のときに、掲示した。

<後期>テーマ「身近な福祉を考えよう」

・社会福祉協議会などの協力のもと、「町内の福祉について・認知症」「視覚障害について・点字体験」「視覚障害について・盲導犬体験」の3回の体験学習を行った。

・3回の体験学習をもとに、さらに自分でテーマを決め、新聞形式にまとめ、それを冊子の形でまとめ、発表会を行った。

【第2学年】

<前期>テーマ「職業調べ」

・さまざまな職業のビデオを視聴し、さまざまな職業について知り、自分が興味をもった職業について、コンピュータ室やタブレットを使い、より詳しく調べ、発表資料としてまとめ、ひのき祭のときに掲示した。また、パワーポイントにまとめ、発表会を行った。

・7月には、コロナ禍のため、1日ではあったが、職場体験を実施した。

<後期>テーマ「京都・奈良、伝統文化について」「上級学校について知ろう」

・12月の修学旅行に向けて、奈良・京都の文化財などについて調べ、新聞形式でまとめた。また、修学旅行後は、冊子の形で思い出をまとめた。

・上級学校調べについては、1人1校ずつ分担し、タブレットやパンフレットを使い、上級学校について調べたことをまとめ、発表会を行った。

【第3学年】

<年間>テーマ「一人一研究」

・中学校3年間の集大成として、各自でテーマを決め、パワーポイントにまとめ、発表会を行った。また、調べた内容を新聞形式にまとめた。

【NIEの取組】

- ①職員室前の廊下に、指定校に無償提供される新聞5紙くらいのその日の1面を掲示し、〈各紙の1面を比較してみよう〉と、比較・対比することができるようにしている。
- ②2、3階の談話室に、新聞を置き、いつでも新聞に触れられるようにしている。
- ③夏季休業中に、職員の校内研修として、日本新聞協会認定NIEアドバイザーの小谷野弘子様則新聞の活用法について講義していただいた。
- ④総合的な学習の時間などを使い、「新聞に親しもう」という目的で、自分が興味をもった記事を切り抜き、記事の内容を要約したり、記事を読んだの感想を書いたりさせ、それを廊下に掲示したり、クラスで発表させたりした。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・1年生の福祉学習や、2年生の職場体験など、実際の体験を通して得られるものは大きく、事後の感想などを読んでも、貴重な体験としてそれぞれに蓄積されている。
- ・身近に新聞があることで、新聞に興味を持ち、世の中の日々の出来事に興味をもつ生徒が増えてきた。休み時間の生徒同士の会話にも、世の中の出来事が話題になることがある。

(2) 課題

- ・タブレット等を使い調べたことが、そのままの文章で、新聞などに、まとめられているので、調べたことを取捨選択する力が必要になってくる。
- ・新聞は難しい、堅いという先入観を払拭できるように、新聞の活用法を工夫していきたい。



(4) 避難所運営体験及び非常食試食体験（11月12日）

6つの体験（避難所受付・段ボールベッド組立・プライベートルーム組立・携帯簡易トイレ使用・教室を利用した避難所開設・通信及び発電機）を前後半で2つずつ体験できるように縦割りグループ分けをして実施した。町総務課福田様・笠原様にもご指導いただき、2・3年生も昨年度とは違う種類の体験をすることができた。

その後、学校応援団おやじの会の皆様に災害用備蓄非常食のわかめご飯とパンの調理・配布に協力してもらい、また町から提供いただいた防災食の水でできるおにぎりも実際に試食することができた。非常食であること、水で調理することに疑問を持っていた生徒からも、実際に口にすることで「意外と美味しい」「これなら家にも常備したい」との感想が上がった。



3 成果と課題

(1) 成果

- ①防災及び災害時の自助に関する知識と意識を高めた
- ②災害時に共助の担い手として地域の力になれることへの気づきを促せた
- ③行政、地域、保護者との連携の強化

①について、各防災教育後の生徒の感想では、体験したことによる驚きやそこから得た意識の変化について述べられていた。また、②についても、自分の家族や近所のお年寄りなどを気にかけて、得た知識をもとに避難所等で率先して動く意思が示されていた。自助・共助について意識を高めることができたと言える。③は、防災教育を実施するにあたり、町総務課、社会福祉協議会、教育委員会はもちろん、保護者や地域の方の支援を受けて実施することができた。

(2) 課題

- ①3年間継続した防災教育の発展の手立て
- ②地域との連携
- ③全ての生徒が自分事に捉えることのできる防災教育の実施

①について、ほぼ同じ形で3年間継続することができたが、コロナ禍の社会情勢だったこともあり、今後は②の地域をさらに取り込んだ計画を検討するなど、③も改善も含めた実践力を高める防災学習に発展させていく必要がある。

学校運営協議会を核とした全校朝会

1 学校研究課題を受けたテーマ

学校研究課題「学びをすすめる教育活動の推進～見える化・発信を意識した取組3～」を受け、次の①～③を目的として取り組んだ

- ①多方面で活躍されている方の話を聞くことで、自分の将来や生き方について考える機会とする。
- ②キャリア教育の一環として、いろいろな職業の方の話を聞いて、将来について考えるきっかけとする。
- ③地域の方との関わりを通して、地域を知り、地域を愛する気持ちを養う。

2 具体的な取組

(1) 実施方法

①月1回

②朝、体育館で20分から30分の内容でお話をしていただく。キーワード「ターニングポイント」「中学生へのメッセージ」として、お話だけでなく、演奏や歌、技の披露なども含める。

③8:20～8:50（※終了は厳守）

※お話をしていただく方には、8:00までに来校していただく。（校長室）

※スライドの準備がある場合には7:50に来校していただく。

※生徒が早く集合できた場合は、早めにはじめる。

④時程

8:15 体育館で出席確認

8:20～8:50 全校朝会（早くできれば8:15～）

(2) 運営等について

- ① 学校運営協議会の方にお話していただく方へのアプローチや司会も含めてご協力をしていただく。
- ② 準備等については、教頭（校長）、必要に応じて進路指導主事や情報担当・放送担当にも協力してもらう。

(3) 全校朝会の実施

- ・6月7日（火）柳瀬寛洲様 はなぞの保育園園長
- ・7月13日（水）延期
小林豊様（スイスからオンライン）練習7月5日
（スイス5つ星ホテルのシェフ 都幾川中卒業生）
- ・9月6日（火）実施
- ・9月16日（金）植松様（和楽器・ティンパニーの演奏他）
音楽科・教務・教頭・校長で対応
- ・10月4日（火）大島紀夫様（天文のお話）「私とすばる望遠鏡」
- ・11月2日（水）織田準一様（オリパパ）（トランペット・ピアノの演奏他）
音楽科・教務・教頭・校長で対応
- ・12月1日（木）埼玉県こども動物自然公園 園長 田中 理恵子様
嵐山幼稚園 園長 田中恵子様 指導者紹介
- ・1月31日 ときがわブランディング工房 手漉き和紙たにの 谷野裕子 様
- ・3月10日（金）大附仁美様（歌でイタリア留学中帰国）
歌他 都幾川中卒業生 ※体育館で実施！！丸山夕子相談員 講演者紹介

3 成果と課題

(1) 成果

目的の①多方面で活躍されている方の話を聞くことで、自分の将来や生き方について考える機会とすることや②キャリア教育の一環として、いろいろな職業の方の話を聞いて、将来について考えるきっかけとすることについては、生徒の感想や話を聞いている態度から見て取ることができた。また、このことを通して、今後、目的③地域の方との関わりを通して、地域を知り、地域を愛する気持ちについては養われていくと思われる。

(2) 課題

学校運営協議会の委員の方の紹介から、多くの講師の方にお話をさせていただくことができたが、短時間であったため、もっと多くの時間を確保していきたいが、難しいと感じている。

また、事前の打ち合わせや話す内容の確認など、ある程度の準備が必要であり、さらに工夫していく必要がある。

※詳細は、都幾川中学校ホームページを参照